

会長就任の挨拶

佐藤勝紀

岡山大学農学部

昨年11月29日、ルネサンス岡山で開催された第32回の研究会で会長に選任され、今後の研究会の維持と発展に大変責任を痛感しております。初代の猪貴義会長（岡山大学名誉教授）、2代目の田坂賢二会長（岡山大学名誉教授）、3代目の栗本雅司会長（樹林原生動物化学研究所・藤崎研究所長）は、個性豊かな指導性を発揮され、研究会をリードしてこられました。その後を引き継ぐ私には大変荷が重いのですが、会員皆様方のご指導とご協力をいただいて会の運営を進めて行きたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

さて、岡山実験動物研究会は今年12月に創立15周年を迎えることになりました。この間、会報は13号を発行し、研究会は35回（うち臨時・特別講演会は2回）開催しております。特に、平成5年6月開催の第25回の研究会以降はいずれも岡山県新技術振興財団から援助を戴き、共催で開催しております。第34回研究会は本年11月28日に予定しておりますが、創立15周年記念に相応しい企画を考えております。

話は変わりますが、昨年10月、念願の岡山大学農学部・薬学部動物実験施設が竣工致しました。この建物は初代会長の猪貴義先生が岡山大学に赴任された時から、津島地区（農・薬・理・工・文・教育学部等がある）に切望されていたもので、在任中、再現性や信頼性の高い動物実験ができる施設の実現に努力してこられた経緯があります。猪先生が昭和51年に「津島地区動物実験共同利用施設設立に関する要望書」を取りまとめられ、昭和55年に初めて本施設の概算要求が文部省に提出されました。その後も関係者の努力が続けられ、この度小坂二度見岡山大学学長をはじめ関係各位のご尽力によって本施設の実現をみる事ができました。要望書の取りまとめから実に20年の歳月が経過しています。

私は本施設の初代施設長として昨年農学部から推挙されましたが、猪先生が岡山で創ろうとされたビジョンを引き継いだ感じがしています。

施設の概要については、次の研究会報で詳細に紹介する予定ですので、ここでは簡単にふれます。

本施設は鉄筋コンクリート造、地上2階建、延床面積は950㎡（1階：484㎡、2階：466㎡）です。本施設の特徴を大きく3つにまとめてみますと、

第1に、本施設は農学部と薬学部が共同して利用する建物であり、全国でも類のないものと思われま

す。第2に、本施設は全体の面積が小さいながらも施設としての機能が発揮できるような構造になっています。室数は大小合わせて30あります。

第3に、本施設は動物の種類、特性によって飼育実験室を1階と2階に分けて配置しています。すなわち、山羊、綿羊、豚などの家畜、鶏、ウズラなどの家禽、ヌートリアなどの野生動物は1階に、マウス、ラット、ウサギなどの実験用小動物は2階に飼育・実験室を設けています。

このように、本施設では良質な実験動物の生産と精度の高い動物実験を行うことが可能になっており、今後、動物研究や学生教育に大きな成果があるものと期待しています。しかし、本施設は省令施設ではないので、施設の維持管理、運営に当たって多くの問題を抱えております。施設の利用者や学内構成員の協力を得て、施設が円滑に、かつ効率良く運営、利用されるよう努力する必要性を感じております。

最近、科学技術会議から諮問第24号「ライフサイエンスに関する研究開発基本計画について」の答申（平成9年7月28日付）が出されています。その中でライフサイエンスの研究開発の推進にとって不可欠な実験動植物の開発・保存・供給体制の整備を図ることの重要性が強調されています。ライフサイエンス研究の進展にとって実験動物、動物実験の果たす役割が今後益々大きくなっていくものとみられます。

岡山実験動物研究会は今後も地域性を生かした活動を展開するとともに、実験動物に関係する学会や各地の実験動物研究会との情報交換を積極的に進めて行く所存ですので、今後とも会員皆様方のご指導、ご援助を心よりお願い申し上げます。